

# 臨時情報を生かすために取るべき行動

地震がいつ、どこで、どのくらいの大きさを起こるかを正確に予知することはできません。地震は突然起きることを前提に、住宅など建物の耐震化や家具などの固定をはじめ、津波からの避難体制の整備を進めておきましょう。

## 住宅など建物の耐震化

南海トラフ地震の被害想定では、住宅などの建物が壊れて亡くなる人は約8万2,000人と推定されています。住宅の耐震化を行うことで、倒壊による死者数や自力で家から出られないまま津波に巻き込まれて亡くなる人を減らすことができます。また、火災による死者数も大幅に減らすことができるでしょう。

## 家具などの固定

家具などの固定をしていないと、家具などの転倒・落下によるけがや、玄関など出入り口までの通路がふさがって、避難の妨げになります。自力で家から出られないまま津波に巻き込まれ命を失うことも予想されています。家具などの転倒・落下防止対策により、死者や負傷者を減らすことができます。

## 津波からの避難体制の整備

津波からすばやい避難ができない人たちを事前に避難させることができれば被害を大幅に少なくできる可能性があります。そのためには以下の取り組みが大事です。

- 津波避難場所・避難経路等を確認する
- 避難訓練の実施
- 率先避難の重要性の周知
- 避難行動要支援者への避難支援対策を進める

## 主なチェックリスト一覧

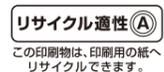
### すみやかな避難のために準備しておくこと

地域のハザードマップで地震、津波、土砂災害等のような危険が想定されるかを確認する	耐震性が低い建物や、土砂崩れや津波浸水のおそれがあるところには、できるだけ近づかない
安全な避難場所・避難経路等を確認する	倒壊の危険性があるブロック塀等には近づかない
家族との連絡手段を決めておく	屋内のできるだけ安全な場所、安全な部屋で生活する（1週間程度）
非常持出品（食料、水、常備薬、懐中電灯、携帯ラジオ等）を、就寝時でもすぐに持ち出せるように準備する	がけ崩れのおそれがある地域では、がけに近い居室で寝るのを控える
すぐに逃げられる服装で就寝する（1週間程度）	津波、土砂災害等のリスクが高いところでは、不安がある場合に避難できる安全な場所（知人宅、親類等）を検討する
出入り口に避難の支障となる物を置かない	

### 家具類の転倒及びガラス飛散防止など室内の対策

窓ガラスの飛散防止対策をする	食器棚の転倒・ガラス扉の飛散・引き出しの飛びだし防止対策をする
タンス類・本棚の転倒防止対策をする	
キャスター付きの収納、ベッド等を固定する	冷蔵庫の転倒防止対策をする
テーブル・椅子のすべり防止対策をする	電子レンジの落下・すべり防止対策をする
テレビをテレビ台に固定し、テレビ台のすべり防止対策をする	ベッド頭上に物を置かない
	高い場所に物を置かない

出典「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン（第1版）」（令和3年5月一部改定）



【お問い合わせ先】

河津町役場防災課 ☎0558-34-1112

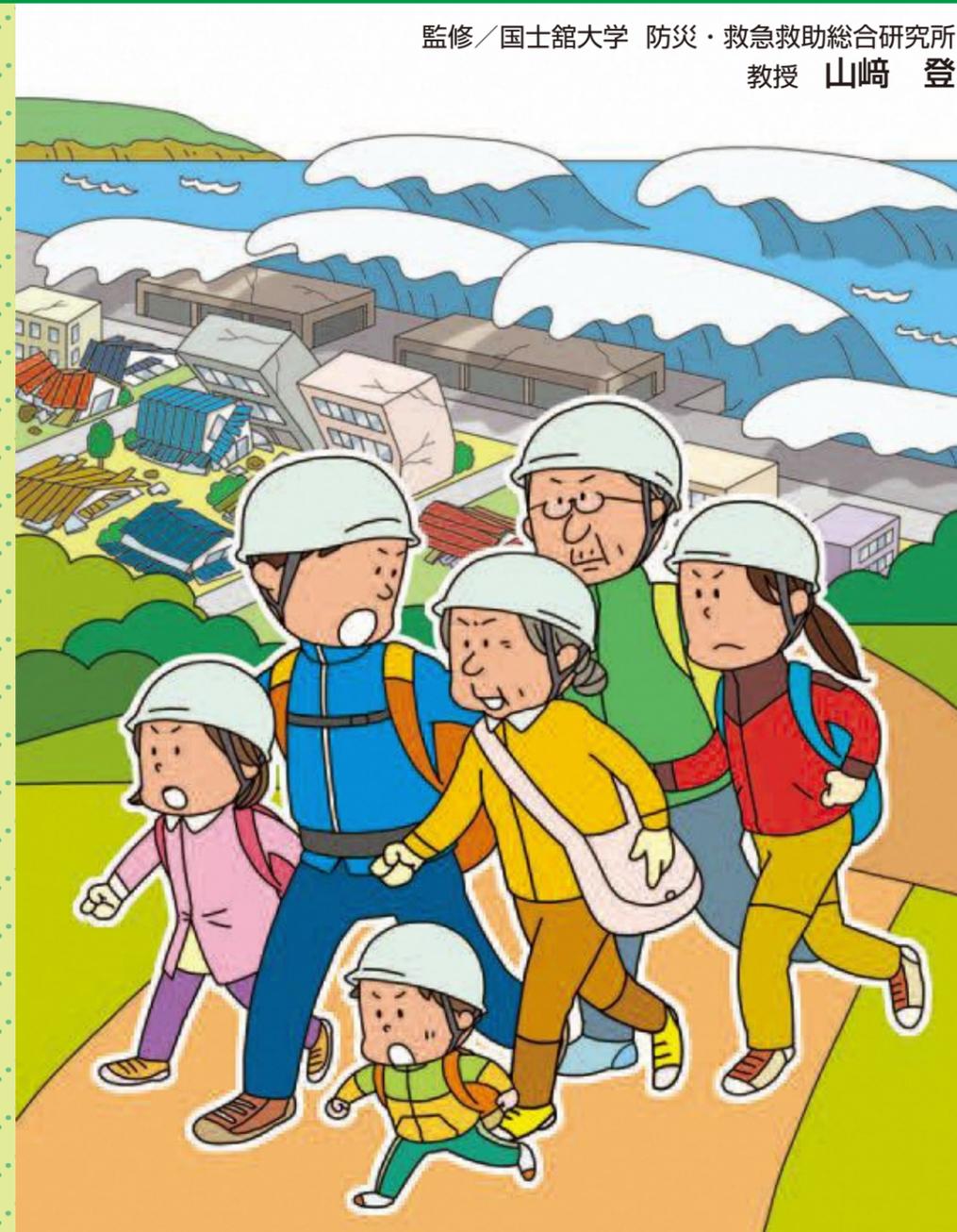
禁無断転載©東京法規出版  
BS012090-V24

# 南海トラフ地震

## 臨時情報が出たときの対応を知ろう!

### ～巨大地震の前兆で事前避難できますか?～

監修/国士舘大学 防災・救急救助総合研究所  
教授 山崎 登



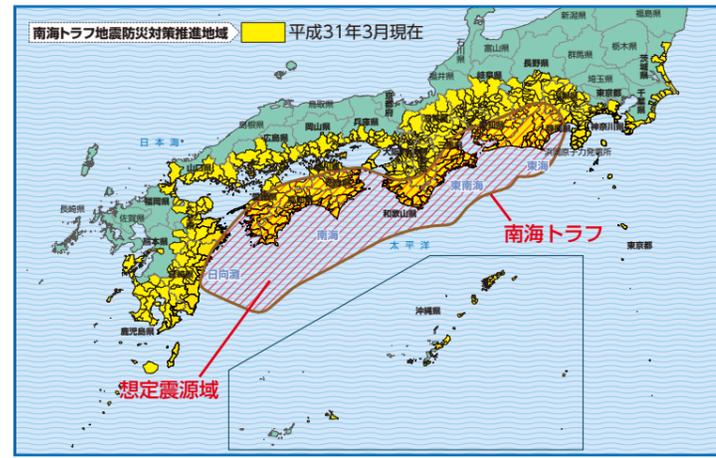
「河津町防災ガイドブック」ファイルにとして、いざというときに備えましょう。

# 南海トラフ地震とは？

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震で、30年以内の発生確率は70～80%です。過去に起きたのはM8クラスでしたが、M9.0の東日本大震災並みの超巨大地震も想定されています。

## 大規模な地震による著しい被害が発生する地域

南海トラフ地震が発生した場合に甚大な被害が起きるおそれがある地域を「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定しています。どの地域が著しい被害にあうのか知っておきましょう。



(内閣府資料をもとに作成)

## 南海トラフ地震防災対策推進地域指定基準の概要

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上で海岸堤防が低い地域
- 防災体制の確保、過去の被災履歴への配慮

# 臨時情報ってなに？

南海トラフ沿いで大規模地震の発生する危険性が高まったときに、気象庁が発表する情報です。南海トラフ地震臨時情報が出た場合、津波からの避難が間に合わない地域などでは、あらかじめすべての住民が避難の対応を行います。

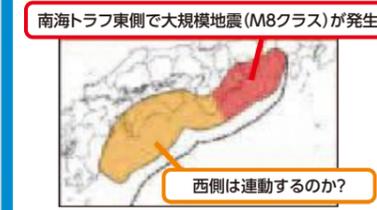
## 南海トラフ地震臨時情報の発表対象となる異常な現象

南海トラフ沿いで大規模地震の発生が高まったと判断できるケースは、次の3通りです。

### ケース①

#### 半割れ(大規模地震/被害甚大ケース)

南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界のほぼ半分で、マグニチュード(M) 8.0以上の地震が発生した場合

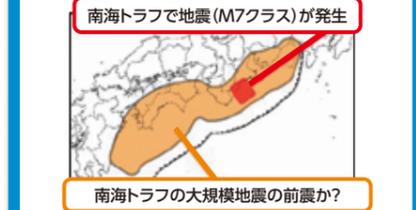


世界の事例では、M8.0以上の地震**103件**のうち、隣接領域で**7日以内**にM8クラス以上の地震は**7件**発生しています。

### ケース②

#### 一部割れ(前震可能性地震/被害限定ケース)

南海トラフ沿いで大規模地震に比べて一回り小さい地震(M7クラス)が発生した場合

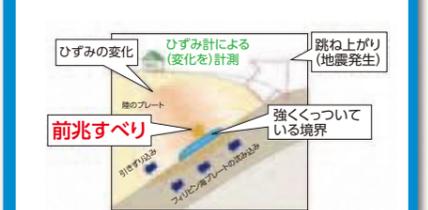


世界の事例では、M7.0以上の地震**1,437件**のうち、同じ領域で**7日以内**にM8クラス以上の地震は**6件**発生しています。

### ケース③

#### ゆっくりすべり(被害なしケース)

ひずみ計等で有意な変化として捉えられ、プレート境界で通常とは異なるゆっくりとしたすべり現象が観測された場合



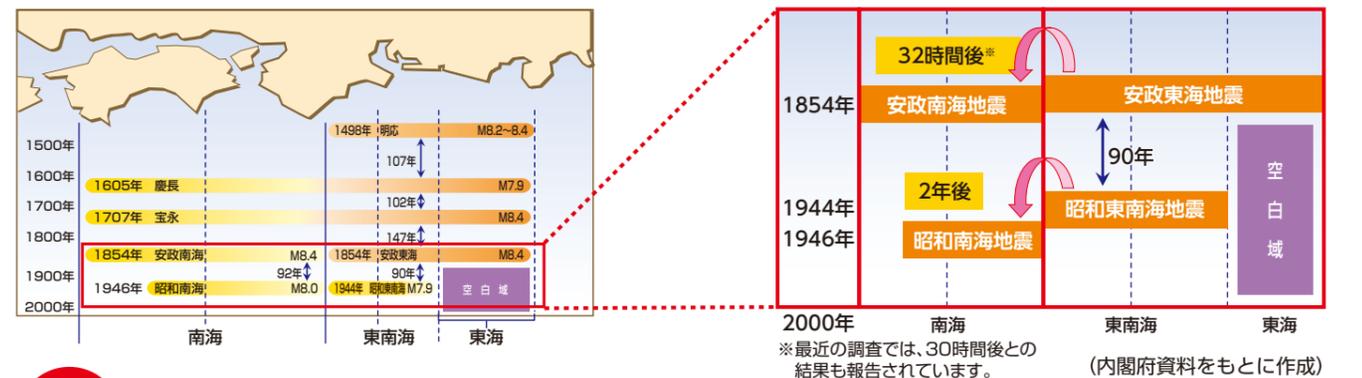
南海トラフでは前例がなく、次に起きる地震との関連がわからないとしています。

(内閣府資料をもとに作成)

**臨時情報が出ないで、巨大地震が突発的に起きることもあります!**

## 最も臨時情報の発表対象となる半割れケースの過去事例

南海トラフの震源域でM8以上の地震(半割れ)が起きた後、残りの震源域で大規模地震が発生した事例は過去にも確認されています。直近2事例は、1944年に「昭和東南海地震」(M7.9)が発生し、約2年後の1946年に「昭和南海地震」(M8.0)が発生して甚大な被害が出ました。もうひとつは、1854年の「安政東海地震」(M8.4)の約32時間後に「安政南海地震」(M8.4)が発生しています。なお、過去2回とは逆に西側から大規模地震が発生するケースも否定できないとしています。



**半割れの巨大地震が発生している地域(東側もしくは西側)では、すでに甚大な被害が発生しています!**

(内閣府資料をもとに作成)

## あなたのまちはいっていませんか? ~1都2府26県707市町村

全域	静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、宮崎県
茨城県	水戸市、日立市、ひたちなか市、鹿嶋市、神栖市、銚田市、大洗町、東海村
千葉県	銚子市、館山市、旭市、勝浦市、鴨川市、富津市、南房総市、匝瑳市、山武市、いすみ市、大網白里市、九十九里町、横芝光町、一宮町、長生村、白子町、御宿町、鋸南町
東京都	大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村
神奈川県	横浜市、横須賀市、平塚市、鎌倉市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、逗子市、三浦市、秦野市、厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、南足柄市、葉山町、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
山梨県	甲府市、富士吉田市、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、笛吹市、上野原市、甲州市、中央市、市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町、昭和町、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町
長野県	岡谷市、飯田市、諏訪市、伊那市、駒ヶ根市、茅野市、川上村、南牧村、下諏訪町、富士見町、原村、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村、上松町、南木曾町、大桑村、木曾町
岐阜県	岐阜市、大垣市、多治見市、関市、中津川市、美濃市、瑞浪市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、山県市、瑞穂市、本巣市、郡上市、下呂市、海津市、岐南町、笠松町、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町、北方町、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御高町
京都府	京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、南丹市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村
大阪府	大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市、島本町、豊能町、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村
兵庫県	神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、加古川市、赤穂市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、加西市、南あわじ市、淡路市、加東市、たつの市、稲美町、播磨町、太子町
岡山県	岡山市、倉敷市、玉野市、笠岡市、井原市、総社市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、浅口市、和気町、早島町、里庄町、矢掛町
広島県	広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、府中市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、大崎上島町
山口県	下関市、宇部市、山口市、防府市、下松市、岩国市、光市、柳井市、周南市、山陽小野田市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町
福岡県	北九州市、行橋市、豊前市、苅田町、吉富町、築上町
熊本県	宇城市、阿蘇市、天草市、高森町、山都町、多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町、苓北町
大分県	大分市、別府市、中津市、佐伯市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、豊後大野市、由布市、国東市、姫島村、日出町、九重町
鹿児島県	鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、阿久根市、指宿市、西之表市、垂水市、薩摩川内市、日置市、曾於市、霧島市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、奄美市、南九州市、伊佐市、始良市、三島村、さつま町、長島町、湧水町、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町、中種子町、南種子町、屋久島町、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町
沖縄県	名護市、糸満市、豊見城市、うるま市、宮古島市、南城市、国頭村、東村、与那原町、渡嘉敷村、座間味村、南大東村、北大東村、伊平屋村、八重瀬町、多良間村

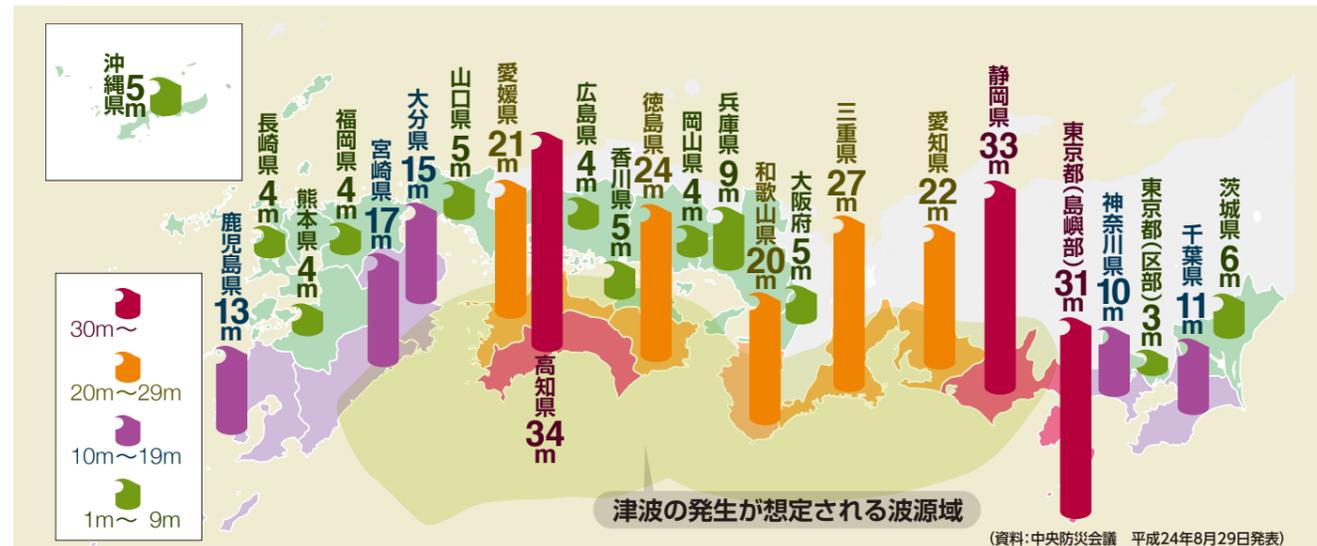
出典「南海トラフ地震防災対策推進地域指定市町村一覧」(平成26年3月28日現在)

# あなたのまちは事前避難が必要か

南海トラフ地震臨時情報によって事前避難<sup>\*</sup>が必要な地域は、津波到達時間の早いところが対象になります。自分たちが住むまちの津波高や津波到達時間を調べて、いざというときにすみやかに避難できるように、避難経路や安全な場所を事前に確認しておきましょう。

<sup>\*</sup>事前避難とは、巨大地震が起きた場合に後発地震発生による被害を減らすことが期待できる避難のこと。

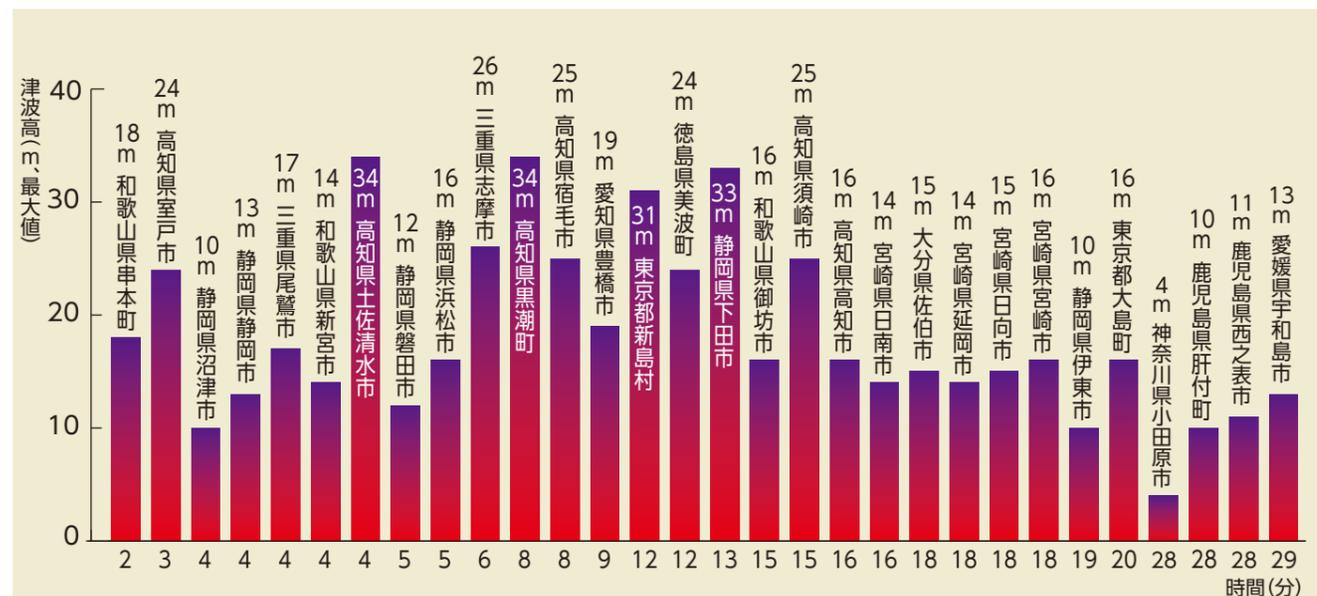
## 都府県別の津波の高さは？



<sup>\*</sup>都府県別の最大津波高。国が想定している南海トラフ地震の11ケースの中から最大値をとった場合、津波高10メートル以上が想定されるのは13都府県、そのうち20メートル台が5府県、30メートル以上が3都府県あります。

## 30分以内に津波が到達する市町村はどこ？

押し寄せる津波からわが身を守るには、早めに避難する以外に方法はありません。ことは1分1秒を争います。大きな地震を感じたら、「1秒でも早く、1メートルでも高く」を合言葉に安全な場所へ避難しましょう。



(注) 1メートル以上の高さの津波の最短到達時間 (分) を表しています。なお、津波高は最大値を表していますが、最短到達時間 (分) に最大値の津波高が到達するわけではありません。(資料: 中央防災会議 平成24年8月29日発表)

# 臨時情報発表! 避難するかどうするか

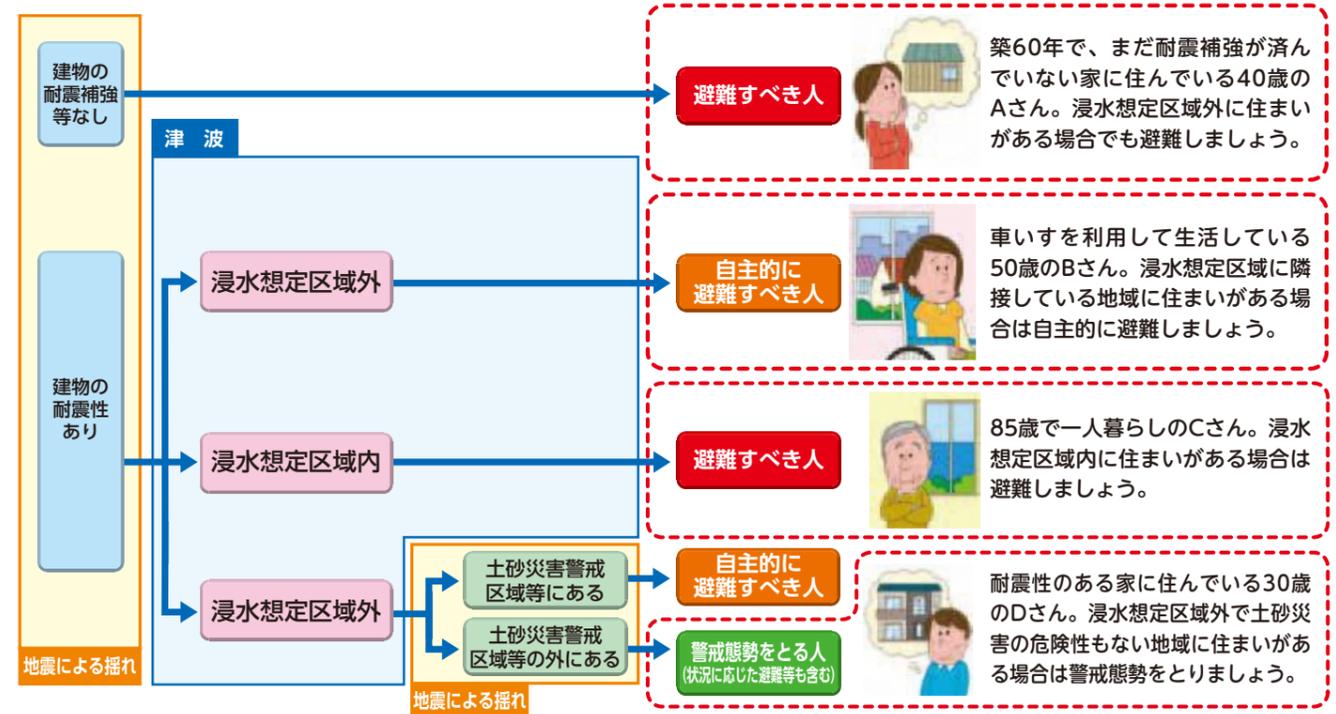
南海トラフ地震臨時情報が発表された際に、住民一人ひとりが避難の判断に迷うことなく、より安全な避難行動を選択できるかが重要になってきます。どんな地域にいるのかを理解したうえで、住民一人ひとりが命を守る行動をとりましょう。

## 避難の判断基準



## 避難の判断の流れを確認しておこう

<sup>\*</sup>あくまでも目安です



## 1週間程度の事前避難が“空振り”になったときの心構え

- 事前避難は多くの場合、空振りに終わることを理解しておきましょう。今の科学では、地震がいつ、どこで、どのくらいの大きさで起きるかを正確に予測することはできません。
- 「避難が無駄になった」と考えず、「何も起こらずよかった!」と思しましょう。
- 「実践的な避難訓練ができた!」という発想を持ちましょう。

# 南海トラフ地震臨時情報と 防災対応の流れ

南海トラフ沿いで観測された異常な現象のうち、「半割れ」の地震発生の際に発表される臨時情報と、その際の防災対応の流れを時間経過とともに知っておくことで、命を守る行動をとりましょう。



(注) 「一部割れ」「ゆっくりすべり」の場合の住民の避難行動は、警戒態勢を取ることが基本とします。裏表紙の「臨時情報を生かすために取るべき行動」を参考にして、日頃からの地震への備えの再確認や、すぐに避難できる準備など安全な防災行動がとれるようにしておきましょう。

## 防災コラム

### 電気やガス、水道が使えなくても生活できますか？

半割れにより大規模災害が発生した場合、電気やガス、水道などのライフラインはすべて途絶するほか、一週間程度は外部からの支援も受けられないおそれがあります。ライフライン途絶でも自力で生活できるよう、普段から飲料水や非常食などを備蓄するほか、カセットコンロやカセットボンベ、給水用のポリ容器、水を使わない非常用トイレなどを準備しておきましょう。また、自治会や自主防災組織など地域ぐるみでライフライン途絶の長期化に対応できる備蓄品・資機材を用意することも大切です。

#### ライフラインの途絶に備える防災グッズ例

- 【電気】 LEDランタン、ソーラーチャージャー、カセットガス発電機
- 【ガス】 カセットコンロ、カセットボンベ
- 【水道】 ポリ容器（折りたたみ式など）

## 防災コラム

### 1週間程度の避難に備えて、食料はどうする？

南海トラフ地震臨時情報が発表されると、避難対象地域の住民は1週間程度避難することになります。そして、南海トラフ地震は非常に広い地域に被害を及ぼすため、食料品の流通、生産が混乱し、入手が困難になることが想定されます。

東日本大震災では被災者への支援物資配布に、一部地域の避難所では食料などが地震発生から一週間たっても全く届かないといったケースがありました。そのような事態に備えるため、家庭や地域でも1週間分ぐらいの食料や飲料水などを備蓄しておく必要があります。

### 食べながら備える「ローリングストック(家庭内流通備蓄)」

いつも食べている食品を多めに買う、「ローリングストック」がおすすめです。古いものから消費し、食べた分を補充していけば賞味期限切れも起こりません。災害時は冷蔵庫にある傷みやすいものから食べて、次に常温保存の食材を、最後に非常食を消費します。ストック食材を活用して、災害時でも食事ができるよう備えましょう。